

■乳用牛

現状と課題

- 新型コロナウイルスの感染拡大以降、**特に脱脂粉乳需要の減少**から生乳需給は緩和。
- 乳用牛1頭当たりの乳量は年々増加しているが、**供用期間の短縮や受胎率の低下**がみられる。
- **酪農の労働時間は長く**、高齢化の進展等により**担い手不足**が顕在化。
- **温暖化等の環境の変化への適応**や、**アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理**などの対応が必要。

【能力に関する目標】

- 乳量 生涯生産性を高めるため、繁殖性の向上等を行いつつ、乳量も**バランスよく改良**。
- 乳成分 需要等に応じた**乳成分率の表型値目標の在り方や総合指数（NTP※）の割合について更に検討が必要**。（※）産乳・耐久性・疾病・繁殖などの要素を加味した、種雄牛を選抜するための総合指数。
- 長命連産性 **繁殖性・耐久性**に重点をおいた改良を推進するため、疾病抵抗性の評価を開始。
- その他の形質 **暑熱耐性**などの改良の推進、**飼料利用性**等の新たな形質の導入などにより、日本の飼養環境に適した改良を推進。
- 体型 極端な**大型化の抑制**、**搾乳ロボットへの適合性**が高い牛へ改良。

主な方向性(案)

【能力向上に資する取組】

- 牛群検定 牛群検定への参加を促進するため、牛群検定の成績から得られる情報について、生産者等が活用しやすいように**情報提供の方法等を工夫**。
- 改良手法 **ゲノミック評価の信頼度向上とヤングサイア※の利用促進**により改良速度を加速化。
- 飼養管理 **AW指針に配慮した飼養管理**や、**ICT技術等を活用した飼養管理**の実施。自らの経営を踏まえた最適な飼養管理方法により能力を発揮させることを促進。

（※）ヤングサイア・・・ゲノミック評価により選抜された候補種雄牛

